

# 第50回 北斗最新医療セミナー

参加  
無料

2017.3.11 土 PM14:00~16:00

会場：十勝リハビリテーションセンター 3階ホール  
帯広市稲田町基線2番地1 (0155) 47-5700

## プログラム

### 講演.I 胃X線（バリウム）検査の現状 ～追加撮影の重要性～

講師：坂本 直彌 氏（会津中央病院 放射線科技師）

現在、胃X線検査は内視鏡検査に比較して診断能が劣るという見解の医師が少なくない。このため、医学教育や臨床研修の場においてもX線検査・診断にかけられる時間は少なくなってきた。

医師の胃X線検査離れが深刻な問題となってきた今、放射線技師の役割として、検査精度の向上だけでなく、画像診断における読影の補助を行う事が重要視されてきている。確かな知識を得た上で異常陰影を見つけ、悪性の可能性を含む所見を読影医に報告・共有する事で、読影医の負担軽減、さらには胃がん発見率の向上につながる。しかし、X線検査に重きを置かない施設では、医師との連携をはかる事は困難な上に、技師が異常陰影を指摘したとしても、読影医が異常なしと判断すれば2次検診にさえ至らない。そして次年度に進行した病変として指摘され、患者にとって大きな不利益をもたらす。筆者にも苦い経験はあり、少なからずとも同じ思いをした方もいるのではないかと察する。

突出した読影能がなくても異常を指摘できるような、存在診断・良悪性の診断ができる客観性を持った画像を提供できないだろうか。そのためには、基準撮影法のみでは限界があり、精度の良い追加撮影を行わなければならない。筆者の経験を通して追加撮影法の必要性を報告する。

### 講演.II 新型経口膵胆道鏡（SpyGlassTM DS）を導入して ～胆膵診療に与えるインパクト～

講師：河瀬 智哉 氏（社会医療法人 北斗 消化器科 胆膵部門 医長）

この度当院では新型経口膵胆道鏡（SpyGlassTMDS）を十勝エリアでいち早く本格導入するに至った。従来の胆道鏡に比べると、画質の向上はもちろんの事、内視鏡操作についても格段に向上し、診断精度の向上や新たな治療法の試みなど胆膵系分野の診療発展にさらなる可能性をもたらすものであると早くも実感している。数例の症例を交えて、スパイグラスDS導入後の実績を簡単に紹介する。

### 講演.III 「膵癌外科治療の現況と展望」

講師：天野 徳高 氏（会津中央病院 肝胆膵外科部長）

膵癌は予後不良の代表的疾患の一つであったが、最近予後の著明な改善が見られている。その最も大きな要因としては、化学療法の進歩があげられる。切除不能膵癌でも2年を超える生存はまれではなく、また腫瘍の縮小により切除不能例が切除可能となる症例も経験する（conversion surgery: CS）。術後の化学療法が膵癌の予後改善に有効であることは明らかになってきたが、術前化学療法の意義（対象、期間、放射線の併用、regimen等）はまだ検討中と言える。自験例から考えた術前化学療法の意義、またCSの成績について報告する。

お問い合わせ・申込先：北斗コールセンター

参加ご希望の方は、事前に北斗コールセンター（48-8000）へ、電話またはFAXでお名前、電話番号・人数をご連絡下さい。